

平成27年度エネルギー・環境教育授業実践

津市立久居東中学校 山科理恵

1. 主題 環境考えた『校内クリーン作戦』

2. レポートの要点

自分たちの生活を見つめ直し、環境学習を通して、自ら考え実践できる生徒を育む取り組み

3. 目 標 環境に負荷をかけない生活を実践していく意欲・態度を育成する。

4. 学習指導要領での位置づけ

- C. 衣生活・住生活と自立
 - (2) 住居の機能と住まい方
 - ア. 住居の基本的な機能
 - イ. 安全な室内環境の整え方、快適な住まい方の工夫
- D. 身近な消費生活と環境
 - (2) 家庭生活と環境
 - ア. 環境に配慮した消費生活の工夫と実践

5. 本校環境教育全体計画

目 標	○環境美化活動や環境保全・再生のための取り組みの学習を通して、身のまわりの環境や自然についての認識を深め、よりよい環境の創造に意欲的に取り組む姿勢を育成する。 ○生命を尊重する心を育成する。		
	教科等	学 年	内 容
1 学期	行事など	全 校	・ <u>クリーン活動</u> を通してゴミ問題について考える。ゴミの分別回収
	行事など	全 校	・ <u>牛乳パックのリサイクル活動</u>
	行事など	1 年	・野外活動
	理 科	1 年	・植物のくらしと仲間
	行事など	全 校	・ <u>美化作業</u>
	行事など	全 校	・ <u>大掃除</u>
2 学期	行事など	全 校	・ <u>美化作業</u>
	理 科	2 年	・動物のくらしと仲間
	理 科	3 年	・化石燃料、地球資源の有効利用 ・クリーンエネルギー、新しいエネルギーについて

2学期	家庭	1年	・エネルギーなど、資源の有効利用について理解する。
	家庭	2年	・ <u>衣服のリサイクルについて知る。</u>
	技術	2年	・ <u>くらしと省エネルギーについて考える。</u>
	行事など	全校	・ <u>大掃除</u>
3学期	理科	2年	・地球温暖化や水の循環について理解する。
	家庭	2年	・ <u>ゴミの分別回収とリサイクルについて知る。</u>
	行事など	3年	・奉仕作業
	行事など	1・2年	・ <u>大掃除</u>

4. 概要 中学校技術・家庭科における環境教育では、地球の温暖化、酸性雨などの地球的規模の環境問題を取り扱うのではなく、身近な消費生活における問題に目を向け、身近な行動からはじめていくことを重視すること考える。

すなわち生徒一人一人の日常生活の過ごし方の違いが、環境に大きな影響を与えていることに気付かせ、各自が自らの生活態度を振り返り、問題点を見つけ、改善点を考え、その後計画実行し（PDCA）、さらにそれを定着させていくことで生活様式そのものの改善ができるようにすることが大切だと考える。また、周りに拡げていくことと考える。

本校1年目の4月、生徒の様子を見てみると、清掃活動は真面目に取り組んでいるものの、家庭科室や教室など毎日使用する場所でさえ、汚れている箇所をわざわざ点検するような調べ学習は日頃行っていなかった。

そのため、それらの箇所での汚れの種類や汚れ方に関わらず、道具等も同じもの行っており、かえって汚れが広がってしまったり、その箇所を傷つけてしまったりしてしまう場合もみられる。これは教職員にも同様な場面はみられている。

今回、改めて、汚れの種類や汚れ方に応じた掃除の仕方を考え、工夫して適切な掃除をできるようにしていきたいと考えた。道具や洗剤などについて、環境に配慮した工夫を考えられると良いと考えている。

数年前に本校舎のトイレの改装があり、バリアフリー対応になったため、それまでの清掃道具では対応できなくなっており、道具や清掃の方法についての見直しや、必要な布などを生徒を通じて家庭に協力を呼びかけたりはしていたため、その他の箇所でも可能ではないと考えた。

今まで以上に、生徒が家庭に帰り、家族とこのような内容を話の材料にできれば良いと考え、まずは、自らの清掃点検箇所であり、教科担当でもあるので、家庭科室を中心に組みもうと計画をした。

家庭科室では、調理実習で使用する流しやガスコンロなど家庭でも身近で、日常生活では欠かせない場所となっており、道具も幾度となく使用しているであるにも関わらず、日頃、自分の家庭ではあまり掃除をしないような箇所ではないだろうか。

清潔に使用し、保管についても現在どのような工夫があるかを、授業の中で、生徒が意識するように話をするように心がけた。またゴミの分別について徹底し、家庭でも気をつけるように指導した。

5. 反省（課題）、来年度に向けて

本年度は、初めて本校に赴任し担任としての業務を覚えることとともに、設備・施設等慣れるのにも時間がかかってしまった。

1年間、中学校の家庭科（3学年全）の授業と、家庭科室や教室等の清掃や環境整備活動を行い使いやすさ等もわかったし、改善点も見えてきた。

来年度はより細かい所に気を配り、年度当初から年間の計画としてさらに発展的に取り組んでいきたいと考える。

【参考文献】

- 1) 文部科学省, 2012年, 中学校学習指導要領解説「技術・家庭科」
- 2) 河野公子, 1094年, 『中学校技術家庭科で進める環境教育<2>』, 明治図書出版
- 3) 佐島群巳・山下宏文・高山博之, 2010年, 『教科学習におけるエネルギー環境教育の授業づくり（中学校編）』, 国土社